

## 福島県

# 震災をバネに福島 の魅力をさらに磨き 上げていく

福島県は、復興には震災被害の風評払拭と風化防止が重要との考えを基本にさまざまな情報発信をしています。観光の力で復興を支える観光交流局長の橋本明良さんにお話を伺いました。

### 風評払拭・風化防止を見据えた 観光分野での三つの柱

福島県の災害は地震と津波だけではなく、東京電力の原子力発電所事故が大きな被害や影響をもたらしました。震災から5年が経ち、一部地域を除き環境回復は進んだものの、いまだ風評は払拭されていません。

一方で被災地に対する関心は時間と共に風化していく側面もあります。「甚大な被害を受けたこと。しかし今では安全を取り戻していること。その二つをしっかりと伝えながら、観光面では三本の柱で復興を支えていきます」と橋本局長は語ります。

その一つ目の柱は、観光復興キャンペーン事業。代表的なものが『小さくしまステイネーションキャンペーン（以下、DC）』です。まず一昨年の平成26年に『プレDC』として地元のおもてなしを充実させると共に、地域の観光素材を掘り起こしました。平成27

年はDC本番として全国にPRし、地域主体の企画には多くの観光客が訪れました。『アフターDC』となる今年は、地域の取り組みの定着や拡大によりさらなる発展を目指しています。

二つ目の柱は、インバウンドの強化です。外国人観光客の来訪者数は、昨年震災前の半分以下。福島空港の上海便・ソウル便が震災以降は連休している影響もあり、来訪者数はなかなか回復しません。しかしタイやオーストラリアからの観光客数は増えており、これから東南アジアやオセアニア地域へのアピールがより重要になっていくことでしょう。

福島空港では震災以降、台湾やベトナムなどからのチャーター便が運航されており、上海便・ソウル便の再開に向けてもさらに努力していくそうです。三本目の柱は、教育旅行の誘致。首都圏からのアクセスが良く歴史や自然を学べる福島では、以前は年間延べ70万人超の子どもたちを受け入れてい

ました。ところが震災直後にはその2割にまで減少し、平成26年にも5割程度の回復にとどまっています。

「教育旅行は将来のお客さまとなる子どもたちに、福島の魅力を伝える効果の大きな事業です。粘り強く正確な情報を伝え、福島の安全を理解していただく努力を続けます」（橋本局長）

### 豊かな自然や食材、歴史遺産… 恵まれた観光素材を再認識

「復興のための努力の中で、福島がいかに観光素材に恵まれていたかを実感しました。私たちがそれを再認識し、福島の魅力に磨きをかけることで観光客を呼び戻せる。そんな希望も芽生えています」（橋本局長）

DCのために地域が考えた観光素材は、取捨選択を行った上で2800にも上りました。福島をPRするモチベーションも上がり、温泉旅館の後継者たちがタッグを組む『小さくしま旦那プロジェクト』や、県中エリアの女



福島県観光交流局長  
橋本明良さん

## 浜通りの厳しい現実も 風化させないために

少しずつ観光によるにぎわいを取り戻し、復興への手応えも感じられる中で、福島県内には、今もなお震災からの復興に全力で取り組んでいる地域も存在しています。原発事故で避難区域が設定された浜通りの12市町村。県では、この地域の観光振興も進めていくため、各市町村と共に、それぞれの状況に応じた誘客対策も検討しています。特に、復興ツーリズムなどを通じて、県を支援してくれる人々と交流を図ることは、重要な風評・風化対策の一つと位置付けています。

性たちが企画した『おもてなし女子駅弁』など、新しい試みが次々と形になっています。

「課題はあるものの、多くの方に福島の今と未来を伝え『新生小さくしま』を実現したい。福島県人としての誇りを持って果敢にチャレンジしていきたいと思えます」と、橋本局長は熱い言葉で締めくくってくれました。



### 二本松! お祭り三昧! 大集合!

平成17年に4つの市町が合併してできた現在の二本松市は、旧市町単位で実施し、横のつながりが少なかった「二本松の提灯祭り」「木幡の幡祭り」をはじめとする伝統的な4つのお祭りを一堂に会したイベントを霞ヶ城公園で開催。今までなかった貴重な共演に市の内外から約56,000人も観客が詰めかけた。

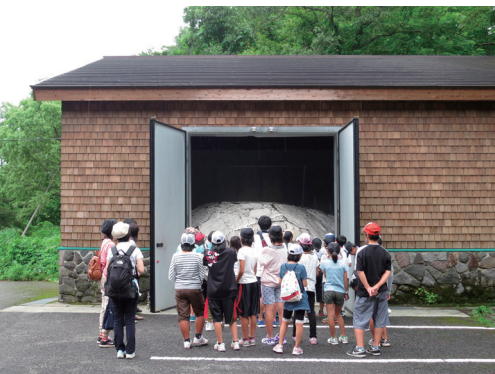
### ふくしま観光素材提案集

DC開催に備えて集めた観光素材を花・食・温泉のキーワードからまとめさまざまな場面でPRした。ウェブからもダウンロードと閲覧が可能。 <http://dc-fukushima.jp/yakudati/download.html>



### さまざまな観光素材の新たな活用

教育旅行やインバウンドへの誘致も視野に、新しい産業を生かしたツーリズムなどの計画も進んでいる。震災後、県内には再生可能エネルギー産業を中心に、日本初・世界有数といった研究開発拠点が多数整備された。写真は貯蔵した雪を活用して、冷房などの冷熱源に利用するための「雪室」の見学の様子。



### 若旦那プロジェクト

平成26年10月、風評被害を乗り越えようと福島市と二本松市にある4つの温泉地の若旦那たちが結成。『若旦那サミット』の開催、『若旦那図鑑』の発行、『若旦那カフェ』のオープンなど、ユニークなPRを実施し、全国の観光業界からも注目を集めている。



### おもてなし女子駅弁

県中エリアの女性たちによるプレDCから3年に渡る企画で、県中12市町村それぞれの食材で観光の魅力を発信するために考案された駅弁。女子目線で食材のふるさとを紹介する「別冊おもてなし女子駅弁」も添えて販売した。



プレDCで観光素材を掘り起こしたことにより、自らの地域資源を見つめ直した各地域から、それまでにない新しい提案が数多く出てきました。こうした成果をメディアや旅行会社が取り上げると、今度は「自分たちもやってみよう」という動きがさらに別の地域で生まれるなど、好循環につながっています。

キャンペーンを通じて  
生まれるようになった  
福島県の新しい魅力